

多様な視点で、みんなで助ける、 みんなが助かる防災講座

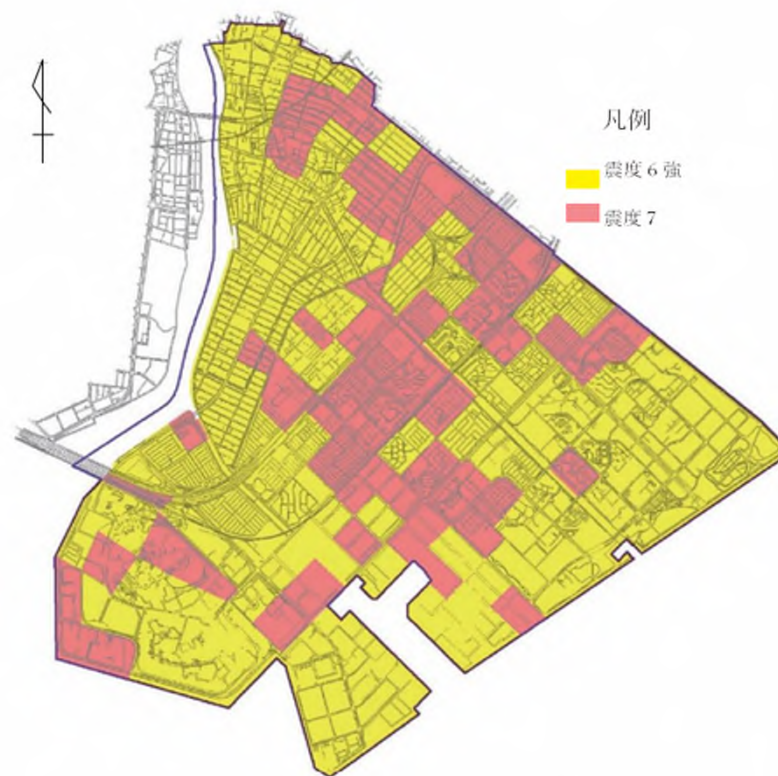
2021.12.11 10:00-11:30

インクルラボ代表
高橋聖子

震度6強～7



2016年4月 熊本地震 震度6強
「動けなかった」



■浦安市直下地震で予測される震度分布

このような対策している人ばかりではない

家具をしっかり固定する

単独使用

効果 大

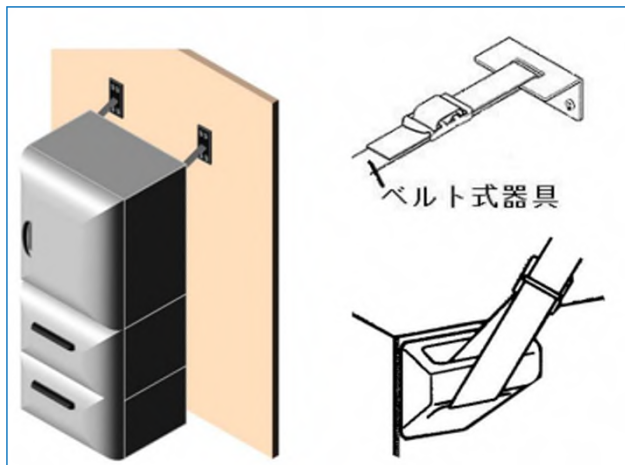
L型金具 (下向き取付)

効果ナンバー1!

L型金具 (上向き取付)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/05b00-2001.html>

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/all.pdf>



家具を置かない



●ポール式

ポール式を使用する。ストッパー式やマット式と併用し家具の上下に対策をとる。

天井との空気が少ない方がよい。

家具の両端・奥に設置する。

●ストッパー式

ストッパー式は家具の端から端まで敷く。

携帯トイレを備蓄する

備蓄の目安: 5回 (一日の平均利用回数) × 7日分 × 家族人数
4人家族の場合 5回 × 4人 × 7日分 = 140枚

①便座をあげてごみ袋をセット



②便座を戻して携帯トイレをセット



③使ったらしっかりと縛る



⑤他のごみと分けて 保管



⑥区の指示に従って ごみ出し

家庭でトイレを備えておいてくれないと、ものすごく並ぶ……



トイレスツール



マンホールトイレ

地域の防災活動 - お悩みはありますか？

自主防災組織の方

市民の方

要配慮者、要避難行動支援者のサポート

高齢者など、要配慮者、要避難行動支援者が多くてどうしよう

地域防災のために何かしたい、でも何から始めて良いかわからない

住民の参加・関心が不十分

防災訓練に地域の人が参加してくれない

あきらめモードの人、防災に関心がない人が殆ど

自主防災組織の担い手

担い手がいなくて、このままじゃ継続できない

他団体との連携

地域の団体・グループとなかなか連携できない

はじめに

講座の目的

多様な地域のひとたち「みんな」が助かること、みんなで助けるために、

男女共同参画の視点を使ってヒントを得る。

構成

1

みんな被災する
でも影響はそれぞれ異なる

3

3つのポイントを押さえて
おこう

2

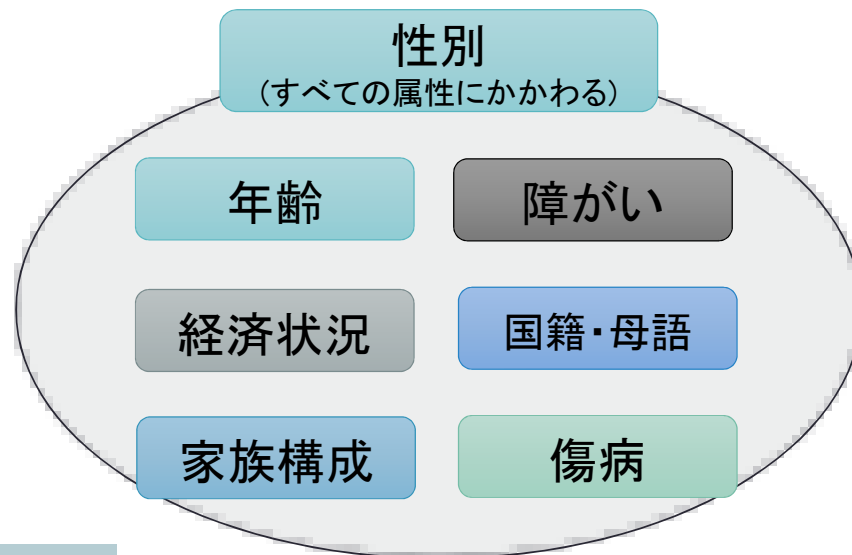
みんなが助かる近道とは

4

平常時からできること

みんな被災する でも影響はそれぞれ異なる

地域には多様なひとがいる



人の特徴



影響

その人の特徴によって影響は異なる

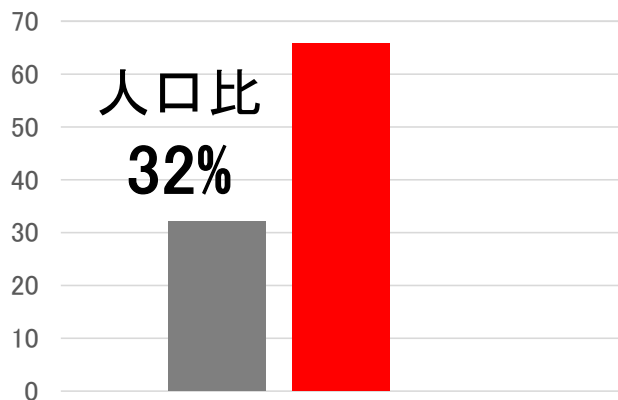
東日本大震災・熊本地震では

東日本大震災 ～津波の犠牲になった方々～

高齢者

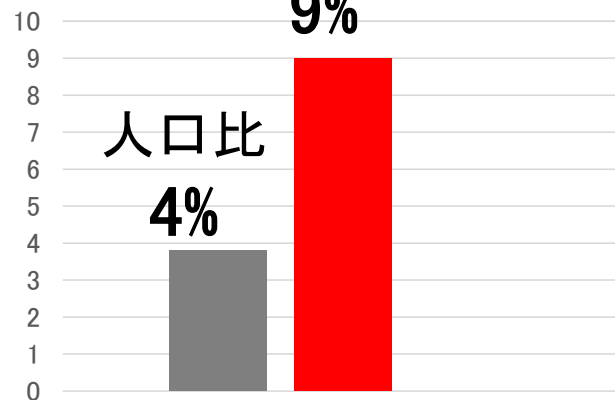
(60歳以上)

犠牲者比**66%**



障害者

犠牲者比
9%

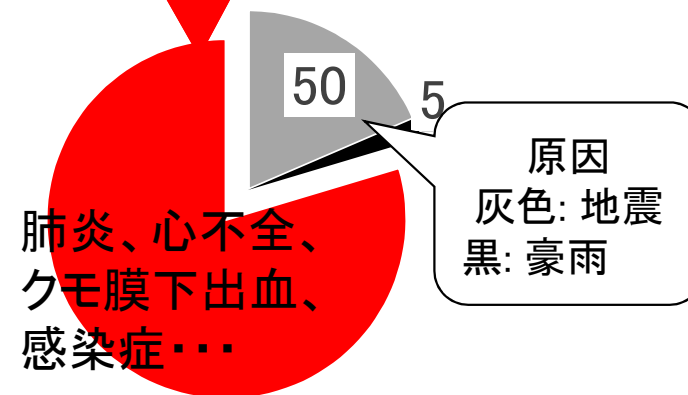


熊本地震 ～災害関連死～

熊本: 災害関連死

218人 80%

*2019.4現在



多様な人の避難生活の困難 ～トイレを例に～

どんなことに困りますか？



たくさんの避難者
少ないトイレ



支援内容の平等は正しい？

運営側

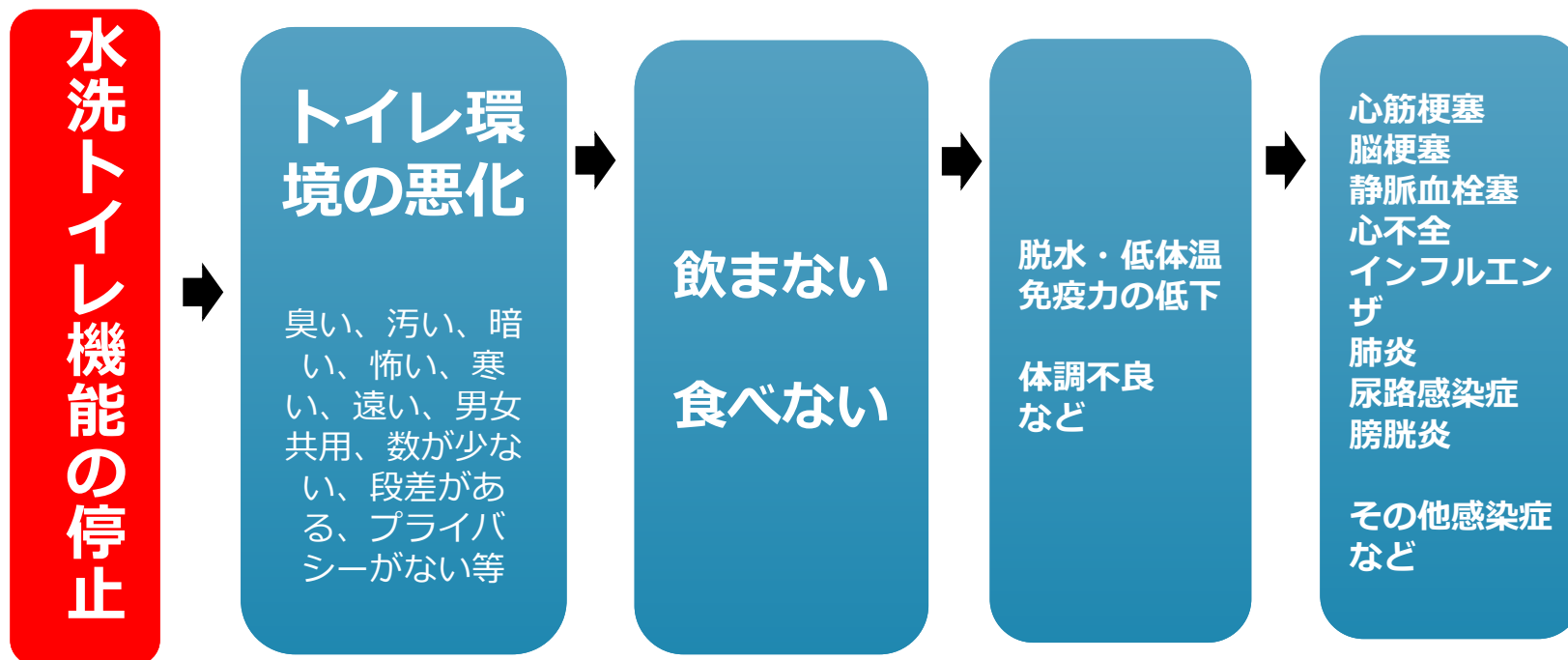
「被災者みんな同じ内容
の支援をしなければなら
ない」

被災者側

「こんなときだから『わがま
ま』言えない」



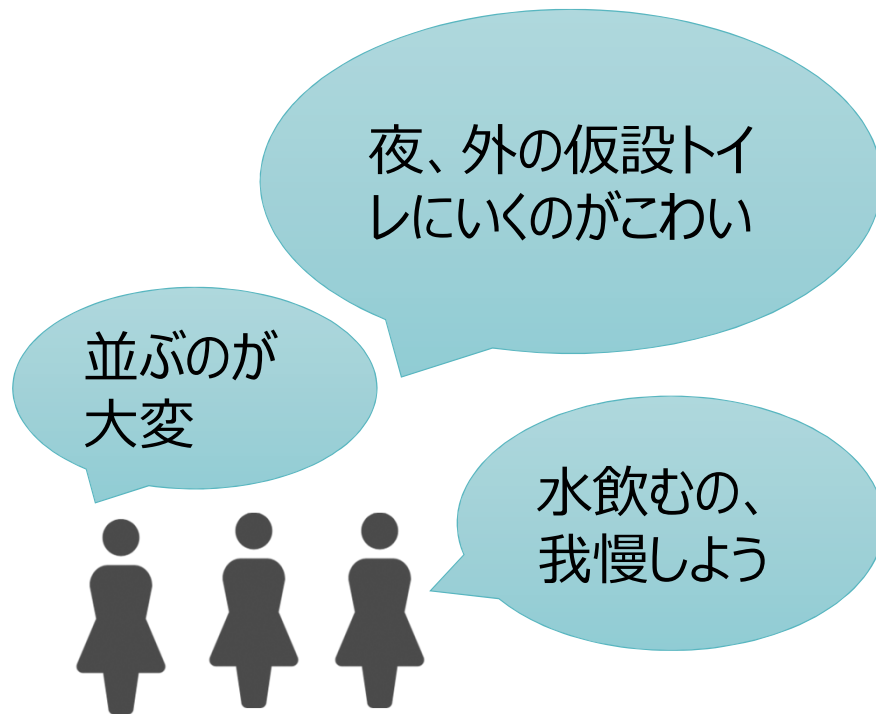
- トイレ機能の停止 → 飲まない、食べない



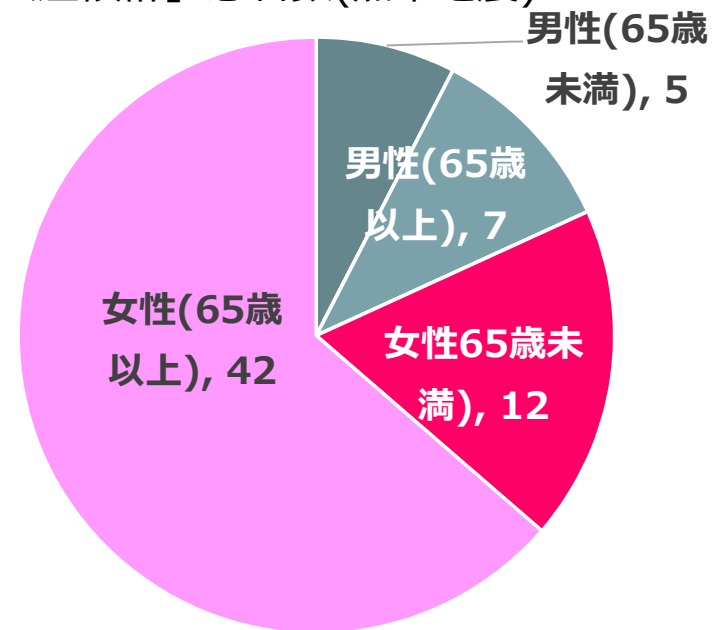
http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/pdf/1605hinanjo_toilet_guideline.pdf

日本トイレ研究所より一部改編

熊本地震の例



入院を必要とした「エコノミークラス症候群」患者数(熊本地震)



「みんなが助かる」近道とは

結果としての平等を目指すこと

内閣府:避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン (2016)
<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/>

- ✓ 20人/1トイレ
既存のトイレがない場所では、50人/1トイレから開始
- ✓ 女性用:男性用=3 : 1
- ✓ 子ども、高齢者、障がい者を含む被災集団全員が安全に使うことができる

・・・では誰が担える？

ニーズにあっ
た支援



災害対策基本法の「基本理念」(2条の2)



みんなが生
き残るため
に

みんなの力
が活かされ
るために

五 被災者による主体的な取り組みを阻害することのないよう配慮しつつ、被災者の年齢、性別、障害の有無その他被災者の事情を踏まえ、その時期に応じて適切に被災者を援護すること。

様々な困り事……

誰が問題に気づいている？誰が「結果としての平等」のためのアイデアを持っている？

食物アレルギー



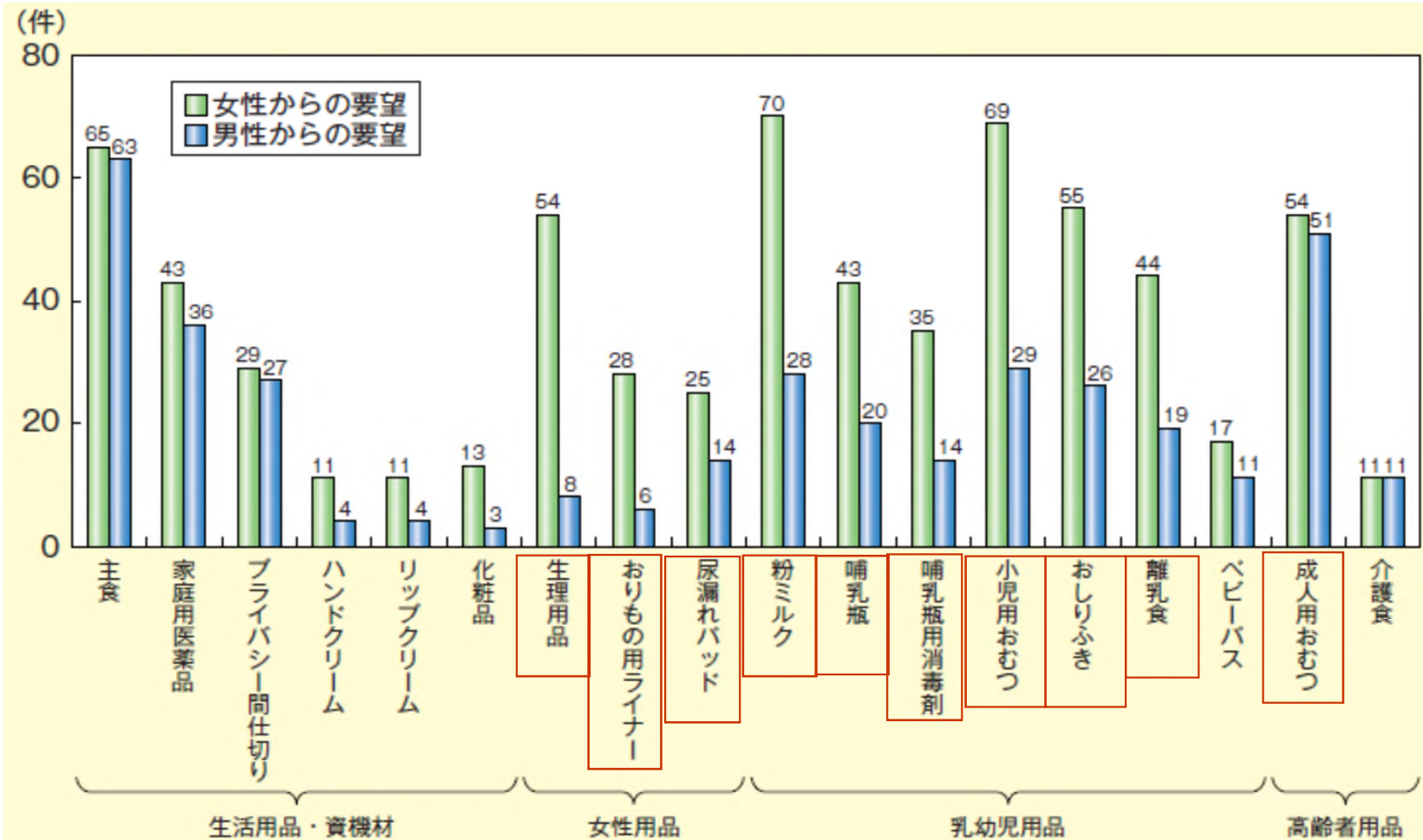
授乳問題



モビリティ



[参考] 東日本大震災で・・・ 物資に関する要望の男女差



(備考) 1. 内閣府「男女共同参画の視点による震災対応状況調査」(平成23年)より作成。
 2. 調査対象は、被災3県(岩手県・宮城県・福島県)の108地方公共団体の男女共同参画担当。調査時期は、平成23年11月。

体調不良になった人がいなかった避難所(熊本地震)



写真:特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム提供

個人スペース

- 整然と並べられた段ボールベッド
- 昼間はカーテンを開けるルールで具合の悪くなる人を見逃さないようにした

体調不良になった人がいなかった避難所(熊本地震)

写真:特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム提供



共用スペース

- 皆で話せる場所
- 子どもたちが過ごせる場所を確保

避難している人による自主運営



リーダー 吉村静代さん

- 1992年から地域づくりボランティア団体を運営
- 熊本地震で被災し、益城中央小学校に4か月間避難
- 避難者自身が快適になれるアイデアをいかした運営
- 避難所の合言葉

「主役はわたしたち～明るく楽しい避難所～きままに」

「できる人が、できることを」

「みんなが助かる、みんなで助ける」ために

私はこれ
ができる
よ



これが
課題だね



地域の人々の
「多様性」
を理解する

協議
(話し合い)



地域の人々が
「力」
=労働力、知恵
情報網
を発揮できる
ようにする

協働
(力合わせ)

こうしたら
どうだろう



私もこれ
が困って
います



男女共同参画が重要な理由

資料提供：減災と男女共同参画 研修推進センター

GDRR

多様な人々

避難行動要支援者／要配慮者

乳幼児、高齢者、心身の障害者、妊産婦、
けが人、難病患者など

性別、性自認、年齢、
国籍や母語の違い、
家族構成、就労状況

被災者一人ひとり直面する問題は違う

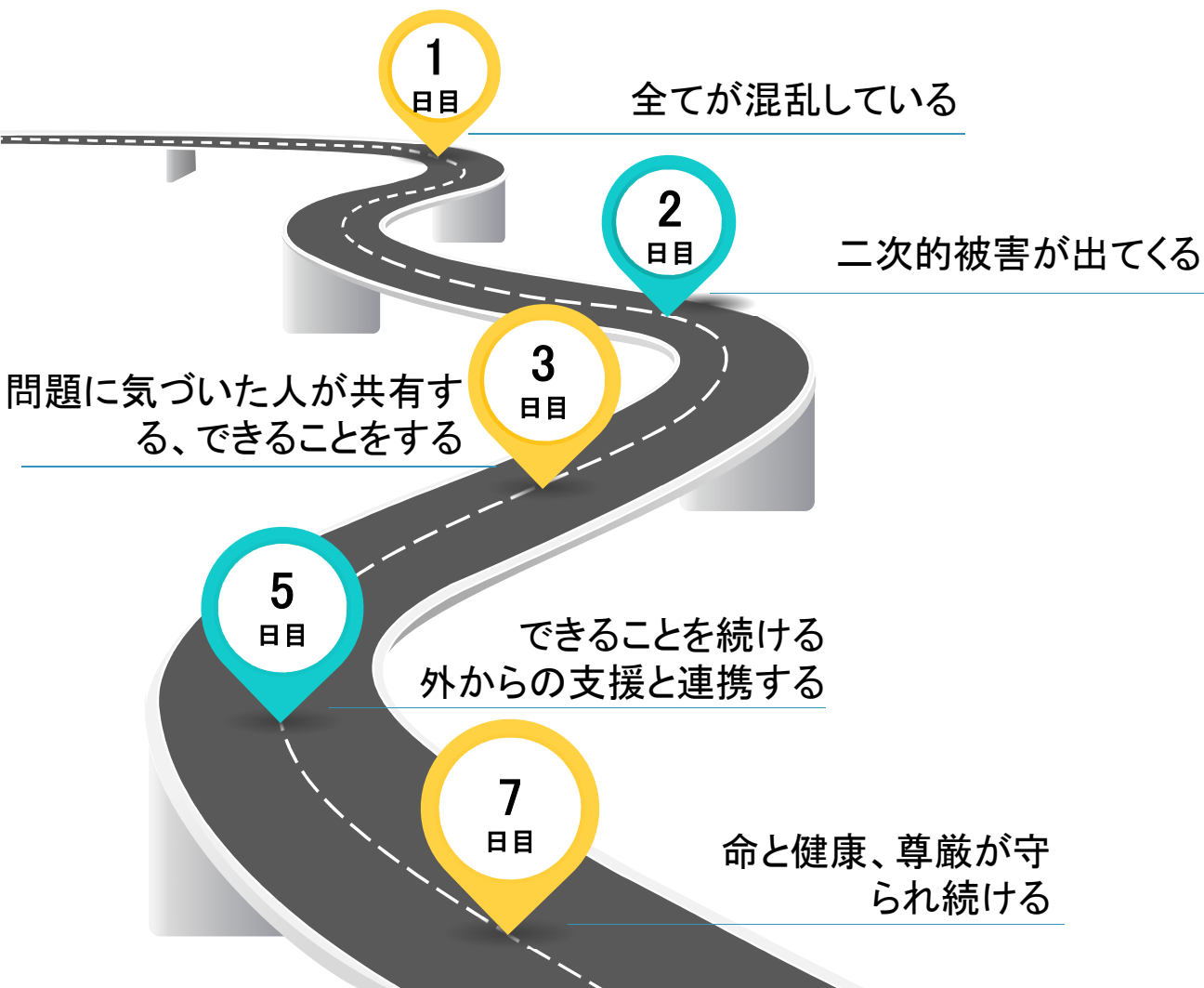
「同じ支援で皆平等」では、被害拡大

地域に暮らす多様な人々の「違い」に配慮した体制・支援が必要

- ✓ 被災者／災害時要援護者の半分は女性
- ✓ 当事者でないと、わからないことが数多くある（女性のこと、育児・介護のことなど）
- ✓ 現状は、要援護者や子どものケアをしている人の多くが女性
- ✓ 保育・医療・介護現場のプロの多くが女性
- ✓ 女性は防災活動や災害時の対応に必要な、生活に根差した知識や能力を持っている人が多い

女性も男性とともに、地域の役員や組織の責任者により多く就けるようにし、障害者や地元在住の外国人等の参加も得つつ、多様な視点で取り組むことが不可欠

大事なこと① 諦めない



- 最初から100%対応できなくて当たり前
- でも、なんとかしたい、という気持ちを共有する
- 出来ることをし続けて行く


➡ 状況が改善する

大事なこと② 問題に気づく

どうされましたか？

あなた

- つらい人の多くは「大丈夫ですか？」と聞くと「大丈夫です」と返す
- 困難が見てすぐにわかるとは限らない(内部障害、発達障害)
- 言い出しにくい困り事もある
- 同じ目線で声がけを試してみる



ちょっと体がきつくて。。。でも大丈夫です

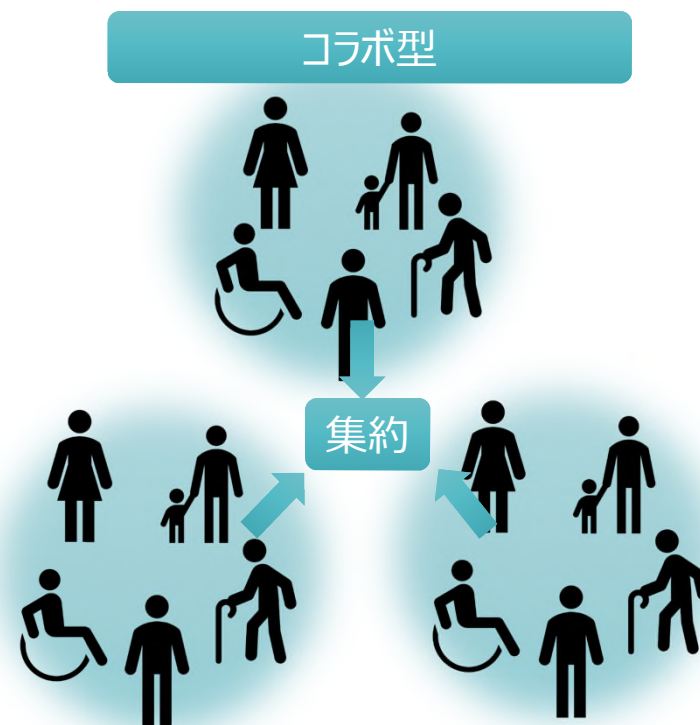
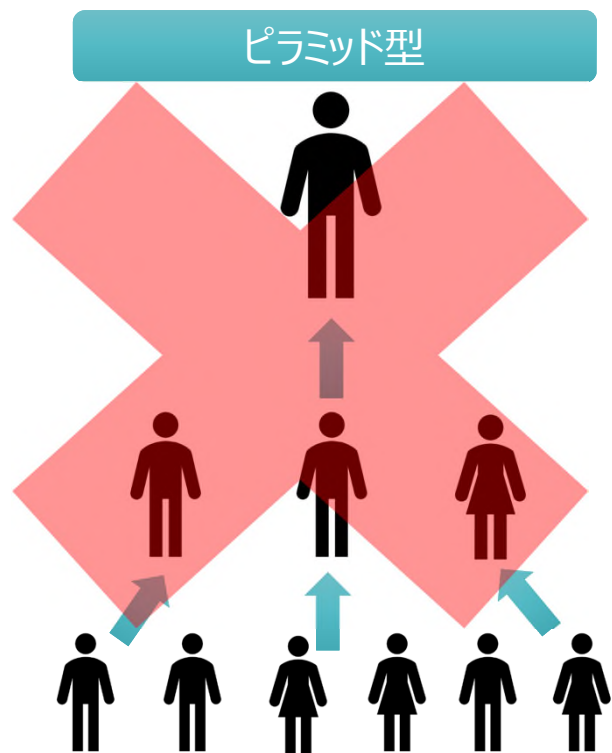
寒いのですか？

あなた

➡ 問題に気づく

大事なこと③ みんなで知恵を出す

- 問題を報告することに留まらず、解決方法の知恵を出し合うことで力合わせができる



好事例

● 在宅避難者の支援の仕組みづくり

- ・ 移動ができない、周囲に気兼ねしてしまうなどの理由で、在宅避難生活を余儀なくされる要援護者は多い。
- ・ 支援環境さえ整えば、在宅避難のほうが心身の健康によいケースも。
- ・ 在宅避難者に食料・物資を配布する仕組みを作ること、避難所の混雑緩和・環境改善を同時に達成した例、民生委員の情報をもとに、地域をあげて、在宅避難の高齢者のみ世帯・障害者世帯を支援した例も。
(在宅避難者自身も、運搬や配布に協力しましょう)

● 託児・託老支援の重要性

- ・ 災害時は、託児・託老支援も重要。
- ・ 避難所の中で被災者同士が子どもの預合い体制を作った例、災害ボランティアセンターと子育てNPOが子どもの一時預り支援を行った例も。

多様な人材が個性豊かに活躍できる地域防災組織を

資料提供: 減災と男女共同参画 研修推進センター



組織形態や運営方法を工夫することで、多様な力のある仲間を増やすことができるのではないのでしょうか？参考に例・案を挙げてみました。

□地域の各種団体・グループに入ってもらおう。

- 子育て世代の女性たちが立ち上げた防災グループを、連合自治会単位で作る自主防災会の正式な構成団体に位置づけた(三重県四日市市)

□多様な人がメンバーに入れるようにする、参加しやすいようにする

- 外国人居住者が多い地域でもあることから、外国人で日本語が上手な方に自治会の役員に入ってもらっている(東京都豊島区)
- 防災会の月例会議の会議時間を、毎回1時間前後できっちり終わらせるようにすることで、主婦の方はじめ忙しい人も安心して参加するようになった。(高知県安芸市)
- 避難所運営委員会に、テーマ別の班・部会を設け、当事者や経験者に入ってもらおう。(子ども支援班、食物アレルギー班、ユース班、福祉班など)

□訓練等テーマを工夫する

- 平日、土日、昼間、夜といろいろな日程で会議・イベントを開催し、参加しやすくする
- 対象別にテーマ工夫 親子向け防災講座、介護のテーマと抱き合わせ等